

# FUNERAL INFORMATION®

千代田セレモニー

## Ceremony

本 部 ☎ 03 - 5837 - 3451

相模原 ☎ 042 - 753 - 2321

2021  
October 10

24時間いつでもお電話下さい、葬儀に関するすべてのご相談に応じます。

この情報紙に記載されている内容に関しましては、地域の習慣・風習などにより異なる場合があります



### 時代祭

京都市

京都市には、「三大祭」と呼ばれるまつりがあります。5月の葵祭、7月の祇園祭、そして秋の京都を豪華絢爛な行列が彩るのが10月の「時代祭」です。いずれもよく知られたまつりですが、それぞれの由来を今一度、おさらいしてみましょう。

まずは、上賀茂神社、下鴨神社の例祭である葵祭。起源は古墳時代の567年といわれ、朝廷が国家行事と位置付けた、五穀豊穡を祈るまつりです。一方、庶民のまつりとなったのが八坂神社の例祭である祇園祭。始まりは平安前期の869年頃で、疫病退散を願う町衆によって1000年以上も続いてきました。

この長い歴史を持つ2つのまつりと異なり、時代祭は新しいまつりです。平安京遷都1100年を記念して明治二十八(1895)年に、創建されたばかりの平安神宮の祭礼として始まりました。新しいまつりとはいっても、さすがは京都です。その起源には、日本の歴史が大きくかかわっています。

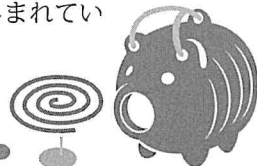
当時の京都は、幕末の戦乱のため荒廃、衰退していました。明治維新で皇居も東京に移され、京都の人たちの誇りも失われかけていたといえます。そのなかで平安神宮を創建し、時代祭を始めたのは、京都のまちに輝きを取り戻そうとした市民でした。

今も時代祭では、市民組織「平安講社」により、明治維新からさかのぼり、江戸・安土桃山・室町・吉野・鎌倉・藤原・延暦の各時代の京都の姿を表す大行列が繰り広げられます。まさに時代絵巻ともいえるまつりは、京都のほかではできないものでしょう。

コロナ禍で昨年、今年の三大祭は行事の縮小を余儀なくされています。京の都が再びにぎわう日が待ち望まれます。

### 京都四大大行事

三大祭にもうひとつの祭事を加えて「京都四大大行事」と呼ぶことがあります。もうひとつの祭事とは「五山送り火」、いわゆる大文字です。昨年は残念ながら規模が縮小されましたが、お盆の翌日8月16日に毎年開かれ、京都市民に親しまれています。



一度は行きたい

# 神社仏閣巡り

第10回

## 東大寺

訪れた人にしか分からない、厳かで神聖な空気感…。誰もが一度は行ってみたいと思う「神社仏閣」をご紹介します。心洗われる歴史、心癒される自然、そしてその地にゆかりの深い名産品などを知って、まずはここで旅気分を味わってみませんか。第10回目は、奈良はもとより日本が誇る世界遺産「東大寺」。ここは学生の頃に修学旅行で訪れた人も多いことでしょう。しかし大人になって改めて訪れてみると、今だからこそ感じられる魅力に溢れています。何度でも新しい感動に出会える日本屈指の愛され観光スポットを存分にお楽しみください。

### ● 癒しの観光地「東大寺」。

「東大寺」は、奈良時代に聖武天皇が創建したお寺。建造物や仏像の多くが国宝に指定されており、1998年にはユネスコの世界遺産に登録されています。そんな「東大寺」の敷地はとても広大で、また境内のあちらこちらにおいて、国指定の天然記念物でもあり、奈良のシンボルでもある可愛い鹿たちがお出迎えしてくれます。街中に優しさを添えているその子たちの円らな瞳に見つめられると一気に心が和みます。

### ● まずは「南大門」へ。

「東大寺」参拝は参道入口にある「大仏殿前」の交差点から始まります。多くの土産物店が立ち並ぶ参道を真っすぐ進むと目の前に現れるのが大きな門「南大門」。長年風雨に耐えてきた木材の古色が威厳を放つこの門は、わが国最大の山門で鎌倉時代に建てられたものです。その「南大門」の左右で睨みをきかすのが迫力満点の金

剛力士像。わが国最大の門にふさわしく、像高は8.4mの大きさを誇ります。鎌倉時代の天才仏師である運慶や快慶らの手により、わずか69日間で作りあげたというから驚きです。力がみなぎる造形美をぜひご堪能ください。

### ● 宇宙をあまねく照らす大仏様。

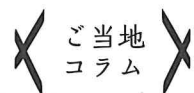
「南大門」をくぐると真正面に見えてくるのが「中門」、そしてその奥が「大仏殿」です。中に入ると高さ14.7mの巨大な大仏様が目に飛び込んできます。この大仏様は正式名を盧舎那仏像といい、華嚴教の教えではこの大仏様が太陽のようにこの世の全てのものに等しく明かりと温もりをくれるとされています。奈良時代は華やかな時代だった反面、干ばつや飢饉、凶作、大地震、天然痘の流行など、数多くの困難に見舞われ、そのことに胸を痛めた聖武天皇が、宇宙の神秘を会得された大仏様に光を照らしてほしいという真摯な思いから作られたのです。大仏様の右手は「畏れることはない」という意味を、左手は「人々の願いを叶えよう」という意味を表しているそう。聖武天皇の発願から9年後の752年に大仏開眼式が行われ、その後約1270年もの間、大仏様は私たちを見守り続けてくれているのです。

### ● お水取りで有名な「二月堂」。

「大仏殿」の東側にある「二月堂」は旧暦二月に関西の早春の風物詩「お水取り」が行われることから「二月堂」と呼ばれるようになった、日本最初の国宝です。十一面観音をご本尊とする仏堂ですが、ご本尊は見ることを一切許されない絶対秘仏。拝観できるのは、回廊と南北に伸びる階段のみ。しかし、山の斜面にせり出すようにして作られた回廊からは、広大な奈良公園や東大寺の大仏殿を一望できます。特に夕日が美しく、夕方になると多くの観光客が訪れています。

### ● 間近で見られる国宝「鐘楼」。

「東大寺」の鐘楼は大仏開眼式と同じ年に作られたもので、日本三大名鐘のひとつに数えられています。高さ385cm、口径271cmという大きさと中世以前の梵鐘としては最大。国宝の鐘楼で出入りが自由なのは珍しく、間近でその姿を見られるのはとても貴重です。鐘の下で手を広げて写真を撮ると、鐘の大きさも分かりやすく、いい記念になりますね。



## 大仏様の鼻の穴をくぐって、無病息災

大仏様の脇にある柱に、大仏様の鼻の穴と同じ大きさの穴が開いているのをご存知ですか。これが「東大寺」名物の「柱の穴くぐり」。これをくぐると無病息災でいられるといわれており、多くの観光客が一生懸命くぐり抜けています。さらに「大仏殿」内部には土産物コーナーも常設されており、大仏殿内部でも記念の品が買えるのです。手ぬぐいや文具、薬湯など品揃えも豊富ですのでぜひ、立ち寄ってみてください。

# くらしのなかで 脳トレに チャレンジ!



おじい  
ちゃん

定年退職をきっかけに、心身の健康づくりに目覚めた65歳。最近は脳トレに一生懸命。



あかり  
ちゃん

小学6年生の元気な女の子。ちょっと口うるさいけれど、おじいちゃんのが大好き。

## 【旅行計画のすすめ】



はあ〜。



どうしたんだ、あかり。ため息なんかついて。



今年は夏休みやシルバーウィークに、どこにも行けなかったでしょ。旅行に行きたかったなあ。



今年は仕方ないな。残念だけど…。よし！来年の旅行計画でも立てようか。あかりはどこに行きたい？



え〜っと、北海道に行きたいな。函館でカニを食べて、帯広で豚丼を食べるの。



食べることばかりだな。おじいちゃん一度でいいから富良野のラベンダー畑を見たいな。



いいね。そこにも寄りましょうよ。



そうすると何日かかるかなあ？ 函館から帯広まで車で6時間ぐらい、帯広から富良野まで2時間ちょっとかな。



結構かかるんだね。



北海道は広いからな。函館の後は洞爺湖温泉で一泊して帯広に行こうか。ちょっと足を延ばして、ニセコ温泉でもいいかな。



おじいちゃん、盛り上がってるね。私の旅行計画だったはずなのに。



ああ、ごめんごめん。旅行計画を立てるのは楽しいんだよ。脳の中にドーパミンが分泌されて、興奮してくるんだって。



ドーパミンが出ると、いつも以上の力が出せるんでしょう？脳が興奮して、よく働くってことね。



そう。旅行の計画は、いろいろ調べるから脳トレになるし、将来の楽しみを考えるから気分転換にもなるんだ。



脳にいいんだね。



そうさ。初めての場所を旅している時には、セロトニンという幸せを感じる脳内物質が出るらしいけど、旅行は計画している時のほうが楽しいって人もいるね。



私は計画するだけじゃなくて、本当に行行って、そのセロトニンっていうのを出したいなあ。



もちろんそうだよ。来年の夏は北海道に行こうな。



うん。でも、まだずっと先だね…。



いいじゃないか。ずっと先まで楽しみが続くんだぞ。あかりも行きたいところを考えておけよ。



私、流氷を一度見てみたいなあ。それから札幌の雪まつりも。



おいおい、季節が違うだろ。



## 姿を変え、常識を変える - 新技術ディスプレイ -

現在のディスプレイの主演は、薄型省スペースのLCD=液晶ディスプレイ。今となっては懐かしい分厚いボディのCRT=ブラウン管ディスプレイでは難しかった携帯性を実現しました。

1991年に日本電気から発売されたPC-9801NCが世界初の液晶ディスプレイノートパソコンであるとされていますが、こういった1990年代初頭のノートパソコンへの採用をきっかけに、テレビへ、スマホへと、様々な用途へ広がっていった液晶ディスプレイ。それが、また今、別のものにとって変わる未来が見えてきています。

まず、現在の一般的な液晶ディスプレイの場合、前面のカラーフィルターを背面のバックライトが照射、光量の調節で図や色を再現します。

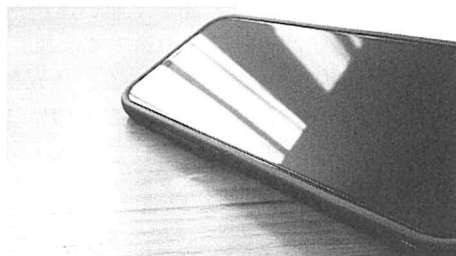
一方、電子看板で多く使われるようになってきたLED=発色ダイオードディスプレイの場合は、カラーフィルターは通さず、LED自体が赤・緑・青色に発色。

そういった発光原理の違いにより、従来の液晶デ

スプレイよりも輝度・コントラストが高く、また電力消費も少ないのがLEDディスプレイの強みです。逆に、小さなLED球自体が発光するため、隙間ができ、近くで見ると画像が荒い。ミニLED、マイクロLEDという言葉もよく聞かれるようになりましたが、コストもLEDの方が高く、もちろん、高精細にすればするほど、高価になってしまいます。

ディスプレイの進化は、細密さや美しさだけではありません。折り曲げ、折り畳み可能な有機ELディスプレイも開発されています。一瞬、「ディスプレイを曲げてどうするの?!」と思ってしまうのですが、腕に巻き付けられるスマホなど、ウェアラブルデバイスでの応用が期待されています。有機ELはLEDに比べ輝度こそ低いものの、放熱しやすく薄くて軽いことが特徴。ディスプレイ付きのTシャツや帽子なんていうのも当たり前になっていくのかもしれない。

他にも、位置によって変化する物質の反射光を再現し、3Dメガネなしで立体感のある映像を見られるライトフィールドディスプレイ、背景が透けて見えるクリアな透明ディスプレイなど、驚きのディスプレイが続々と実用化されています。



## あれこれ大百科



## 喪服の身だしなみマナー

葬儀や法事ではマナーを守った身だしなみが求められます。これらはすべてフォーマルな場ですから、身だしなみにおいてはファッション性よりもマナーを優先しなければならぬのは当然です。葬儀における服装は遺族や親族、参列者すべての人において準喪服の着用が基本です。通夜に限っては、参列者は略喪服の着用も可能。また、法事においては故人との関係性に加え「何年後の法事か」にもより、適した服装が異なってきます。

## 法事に適した服装

四十九日から三回忌までの法事では、遺族や親族は準喪服を着用することが多いようです。しかし、参列者は略喪服でも問題ありません。そして、三回忌以降の年忌法要では、親族や参列者ともに略喪服を着用する傾向にあります。法事の案内状に「平服でお越しく下さい」とあった場合でも「平服とは略喪服のことである」と捉えておきましょう。

## 弔専用の靴について

マナーを重んじる葬儀や法事では、老若男女問わず黒色無地のシンプルな靴が適しています。さらに、素材は、本革もしくは合成皮革、布などの光沢感のないものを選びます。本革でもスエード素材やバイソン柄、クロコ柄などの型押しは、殺生を想起させることから避ける必要があります。さらに、靴を脱ぐ場面も想定し、中敷きにも気を留めておきましょう。着物の場合は「喪履き草履」と呼ばれる黒で統一された草履があります。事前に準備しておくことをおすすめします。

## 弔専用の靴下について

男性は黒色無地の靴下を着用します。黒色に近い色合いだとしても、ネイビーやグレーといった色は避けたほうが無難です。靴を脱いだ時や椅子に座る時などに素肌が見えないよう、ミドル丈の靴下を選びましょう。女性は黒色無地のストッキングが基本です。厚さの目安としては「肌が少し透ける程度」が適切です。商品パッケージに記載のデニール数でいえば、30デニールのストッキングが弔事に最適です。葬儀や法事においては、故人や遺族へ弔意を示すためにも、身だしなみには細心の注意を払いましょう。



アポロ14号でも採用?!

## — Rickshaw —

みなさん、Rickshawって読めますか?カタカナで書けば「リクシヨ、リクシヨ」。これ、実は人力車が縮まった力車=リキシャ、ここからできた言葉なんです。英語の辞書にもちゃんと載っているんですよ。

我々が「人力車」と聞いて思い浮かべるのは、観光地などで見かけるあの人力車ですね。まずは二輪、そして「人力」ですからもちろん、人が動かすものです。しかし昨今、海外では東南アジア、また南欧などの三輪タクシーのことも指してrickshaw または auto rickshaw と呼ぶのだとか。もともとの人力車とはこ

れまた大きく変わったものです。

さて、このRickshaw、実は宇宙にも飛び出し活躍したことがあるのです。

正式にはMET (Modular Equipment Transporter) というアポロ14号のミッションで初登場した月面の機材運搬用のカート、これの愛称がrickshawでした。カートですから、私たちからすれば人力車というよりリヤカーですが、リアカー自体、サイドではなく後ろ(rear)のカーという和製英語なんだとか。おもしろいですね。

近頃はハイブリッドバイクなどの新モビリティも数々登場していますから、思ってもみないものがrickshawになり、日本の人力車も、新しい時代を迎えるかもしれませんね。

